1997.10.31
No.7

KANDA NISSHO MEMORIAL MUSEUM of ART

# 記念館だより

神田日勝記念館
〒081-02　北海道河東郡鹿追町東町3丁目2　TEL 01566-6-1555

人と牛C
1968年
油彩・板　183.0×184.0

帯広市に寄託されていた「人と牛C」は、鹿追町で購入し新収蔵となりました。半年間の修復作業を経て、10月1日からの特別企画展より展示しています。

## 海と大地の邂逅

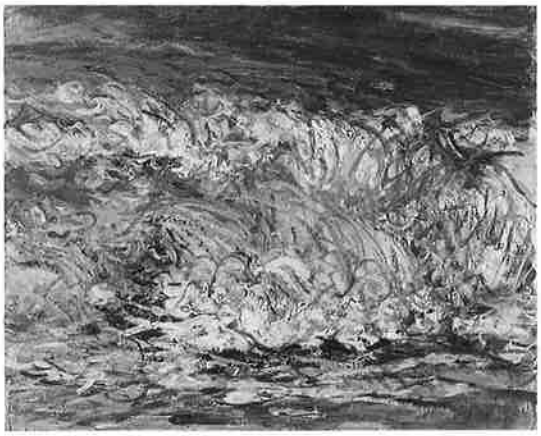
# 「木田金次郎と神田日勝」展

十月一日～十二月二十一日

平成九年度特別企画展では、後志管内岩内町の木田金次郎美術館と協力し、収蔵品の一部を交換する「海と大地の邂逅　木田金次郎と神田日勝展」を十月一日から十二月二十一日の約三か月間に渡り開催しております。

木田金次郎（一八九三～一九六二）はその生涯を漁港の町・岩内町で過ごし、周辺の自然の移ろいゆく表情を激しく奔放な筆致で描き続けた画家です。

漁師の家に次男として生まれた木田は、小学校卒業後すぐに進学のため上京し、早くから印象派に触れながら、油彩画の制作を始めています。その後、家業不振により帰郷を余儀なくされ漁業を継ぎますが、小説家であり印象主義を北海道へ紹介した有島武郎との交流を支えとして、この地を離れることなく制作を続けました。有島の「生れ出づる悩み」は、画家として生き抜こうと苦悩する青年・木田との交流をモデルとした小説としても知られています。



木田金次郎　波

その後、有島の死を契機に漁業を捨て画家として歩みを進めた木田は、全道美術協会、後志美術協会展の創立に名を連ねながらも展覧会には一度も出品することなく画壇と隔絶したところで制作を続けました。晩年、岩内大火によってそれまで描きためた一、五〇〇点以上もの作品を消失しながらも、東京・大阪を含めた大規模な個展を通し、「色線」によって自然を象徴的にとらえた独自の画境を切り拓きます。しかし、個展を終えた矢先、脳出血によって六十七歳の生涯を閉じます。平成六年十一月三日には、その画業を顕彰することを目的に木田金次郎美術館が開館しました。

神田日勝　死馬

漁師の家に生まれ育った木田と農業を続けた神田、両極に位置する海と山の風土での両者の生活体験は、奔放な筆致の色線と堅牢な克明描写という対照的な作風を生み、北海道美術史の中でも際立って特異な存在として認められています。入れ替わるように登場した二人に交流はありませんでしたが、一地域に根ざして制作を続け培われた作風には、北方の風土を底流させている共通点があります。

本展はこの両者を顕彰する個人美術館二館のネットワークを通し、収蔵品交換による同時開催によって、個人美術館の連携を築く試みであり同時に北海道洋画壇の独自性をあらためて検証し、その魅力を存分に味わっていただこうとするものです。

一階展示室においては、新収蔵の「人と牛C」を含む初期の「ゴミ箱」から晩年の「馬（絶筆）」に至る収蔵作品に、北海道立近代美術館蔵の「死馬」「一人」を加えた二十点の作品によって神田日勝の画業をたどるとともに、生前愛用した画具等の関連資料を展示し新たな一面を展覧しています。

また二階展示室においては、初期の「風景」から晩年の代表作「波」「東山から見た早春の岩内山」等素描を含む十四点の作品を展示し、さらに写真パネル等の関連資料を加えて木田金次郎の実像をおっています。

そしてこれにより、二人の絵画世界を併せて紹介する構成にしています。

十月一日のオープニングでは、青塚誠爾木田金次郎美術館名誉館長等によるテープカットが行なわれました。

## 美術講座・講演会

### 「木田金次郎の想い出」

九月三十日

鹿追町民ホール・視聴覚室

### 「北方の形象」

十月十九日

鹿追町民ホール・視聴覚室

「木田金次郎と神田日勝」展関連事業として講座・講演会が開催されました。

展覧会開会前日には、木田金次郎の高弟・青塚誠爾木田金次郎美術館名誉館長から「木田金次郎の想い出」と題し、当時の様子を大火で失われた作品の写真を交えながら、お話いただきました。

翌月、鈴木正實北海道立近代美術館学芸部長から「北方の形象」と題し、〈北方〉の地にはぐくまれた造形精神をテーマに、スライドを使用して、北海道を代表する画家の言葉と作品を紹介し、併せて木田と神田の個性について講演いただきました。

# 蕪墾祭

六月十七日

第三回蕪墾祭が、神田日勝記念館展示室を会場に開催されました。

ミュージアムコンサートスタイルで開館記念日を祝う集い。今回は、高橋揆一郎館長が会長をつとめる「いろりっこの会」が出演。先年会の中心メンバーの沼田順子さんが記念館を訪れたことが機縁となって、この公演が実現しました。日本人の心に歌い継がれる唱歌・童謡の世界に多くの観衆は魅了されました。出演者と観客が一体になっての合唱も行われ、会場が一つの輪となる意義深い集いとなりました。

恒例となった北海道電力の記念館のライトアップも幻想的な雰囲気を漂わせてくれました。

ワインとチーズの交流会も、コンサート終了後鹿追町民ホールを会場に開催。各地域を代表するいろいろなワインと、十勝を代表するさまざまなチーズが会場に並べられ、特色ある交流会となりました。また、友の会スタッフによる山菜料理も色どりを添えました。ミニスピーチやアンコール演奏も行われ、なごやかな中に、記念館の誕生記念日を祝いました。

# 神田日勝記念館を描こう

七月十二日　神田日勝記念館前庭

絵画教室の一環として、野外での講座が開催されました。

この講座は形式にとらわれず、画材を自由に選択し「絵を描く」ことに親しみを持つことをねらいとし、また、対象年齢の制限をなくすことや、午前十時から午後二時までの時間内での自由参加という可能な範囲で気軽なスタイルを取りました。

当日は、天候に恵まれ八名の参加者が、休憩や昼食を取りながら時間いっぱいを使って、それぞれに神田日勝記念館を描き上げました。

# 子どもワークショップ

七月二十九日　鹿追町民ホール・工作室　神田日勝記念館

三回目を数えたワークショップでは、山登り人形を制作しました。参加した三十二名は、それぞれ個性ある人形を作り上げていました。また、作品や画具を題材にしたビンゴゲームを通して、神田日勝の絵について学びました。

その後、記念館で実際の作品を観覧し、「ゴミ箱」や「馬」などに描かれている題材について話しながら、神田日勝に対する理解を深めました。

# 馬耕忌

八月二十四日

第五回馬耕忌が、鹿追町民ホール・ミュージカルホールを会場に開催されました。

第一部は献花と黙とう。遺影を飾る野の花が、農に生きた画家を偲ばせる中、田中光俊さんのギターにのせて参加者全員の献花が行われました。さらに田中さんの演奏に併せ都甲雅子さんが神田日勝の遺した文章の一節を朗読し、会場には荘厳な雰囲気が漂いました。

第二部はトーク。中原悌二郎記念旭川彫刻美術館長斉藤傑、武田伸一記念ギャラリーコーディネーター松井由孝、神田日勝記念館学芸員菅訓章三氏による対談が行われました。今回のキーワードは個人名を冠する美術館の現状と将来像。パネリストと作家との関わり、作家と作品にかかわるそれぞれの想い、互いの館の現状など、さまざまに語られる対話の中から、神田日勝記念館がもつ魅力や展望に大きな示唆が与えられました。

第三部は恒例のジンギスカンによる野外交流会。会場いっぱいに参加者が集い、講師・演奏者を囲みながら、芸術談議に花を咲かせました。地元以外からも多くの参集者が姿を見せ、徐々に裾野の広がりを印象つけました。

# 絵画教室―油絵講座

十月一・八・十五・二十一日　神田日勝記念館　団体活動室

絵画教室―油絵講座が十月、四回コースで出村英和先生を講師に迎えて開かれました。

四名の初心者を含む十二名の参加があり、秋の野菜をモチーフにして作品の制作に取り組みました。

「描くことに決まりはありません。それぞれ思った通りに描いてみて下さい。」との先生の言葉に、多少とまどいながらも、それぞれ作品を描き上げました。

完成した作品は、町民文化祭作品展に出品し、成果を発表しました。

# 芸術鑑賞バスツアー

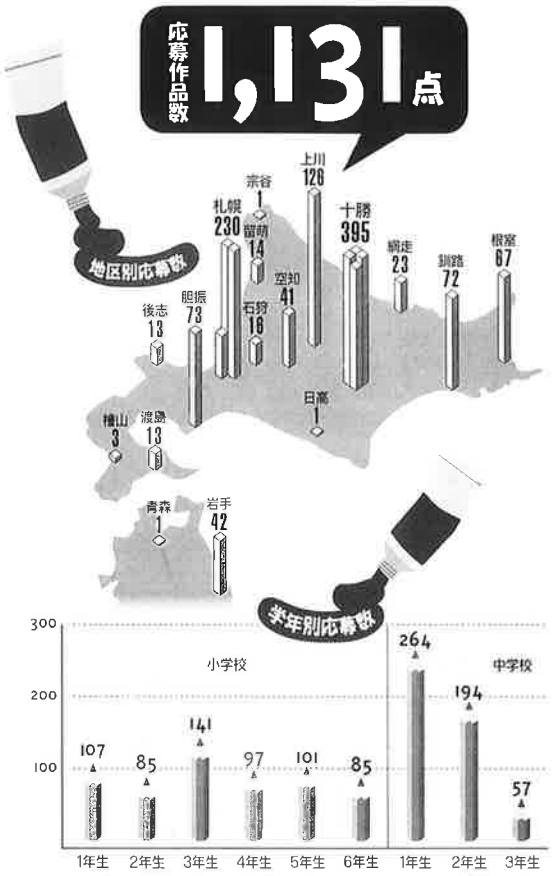
十月十二日　北海道立近代美術館

芸術鑑賞バスツアーは、北海道立近代美術館を訪れ、十七名が参加しました。開館二十周年特別企画展として開催された「ガラスの新世紀」展では最新のガラス芸術に、また、神田日勝の作品も出品された「北方の形象」展では、北海道の美術に触れました。

また、隣接する三岸好太郎美術館にも足を運び、十七名の参加者は充実した一日を過ごしました。

# 第3回馬の絵作品展

**募　集　7月15日～9月6日**
**展覧会　10月7日～10月12日**
**会　場　鹿追町民ホール**




神田日勝が生涯馬の絵を描き続けたことにちなんで、小中学生を対象に開催されている馬の絵作品展も、第三回となりました。昨年から全道に募集範囲を広げましたが、今年度はチャグチャグ馬っ子で知られる岩手県南部や、鹿追町と青少年交流のある九州の南阿蘇地区にも対象地域を広げました。

子どもならではの様々な視点で描かれた馬の絵は一、一三一点が寄せられ、審査の結果、釧路市立鳥取中学校三年・山崎麻理子さんの草を食む馬を描いた絵が北海道知事賞を受賞したほか、入賞・入選・佳作九十六点が選出されました。

北海道知事賞受賞作品

十月七日からの展覧会では応募作品全てが展示され、連休を挟んだ会期中には、たくさんの児童生徒や家族が訪れ、様々な地域や他の学年の作品に興味深く見入っていました。

なお、十一日には鹿追町民ホールミュージカルホールにおいて表彰式が執り行われました。

齋藤隆博審査委員長は「普段の生活に馴れ親しんだ馬の様子や、躍動感、力強さ、そして、自然の中で生きる馬の生命感を効果的に表現したものが年々増えている」と評しています。

なお、入選作品の巡回展は十一月四日から二十八日まで幕別町・十勝教育研修センターで、十二月二日から十四日まで帯広市・とかちプラザで開催します。

## 入　賞

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 北海道知事賞 | 釧路市立鳥取中学校 | 3年 | 山崎麻理子 |
| 北海道教育委員会教育長賞 | 釧路市立芦野小学校 | 3年 | 村井　剛大 |
| 鹿追町長賞 | 早来町立早来中学校 | 1年 | 佐藤　未来 |
| 鹿追町教育委員会教育長賞 | 鹿追町立鹿追小学校 | 1年 | 津田　錬平 |
| 神田日勝記念館長賞 | えりも町立庶野小学校 | 6年 | 藤澤　希美 |
| 北海道新聞社賞 | 浜中町立浜中小学校 | 2年 | 西　希望 |
| 北海タイムス社賞 | 根室市立啓雲中学校 | 1年 | 澤田　一洋 |
| 十勝毎日新聞社賞 | 穂別町立仁和中学校 | 2年 | 斉藤　伸恵 |
| 日本放送協会賞 | 札幌市立西野中学校 | 2年 | 小林こずえ |
| 十勝造形サークル委員長賞 | 札幌市立南の沢小学校 | 5年 | 小川　悠 |
| 帯広市教育研究会図工美術部会長賞 | 鹿追町立瓜幕小学校 | 4年 | 宮下　智香 |

# 感想ノートより……⑤

苫小牧より来たかいがありました。
言葉で言うと、というより語る言葉がみつからないほど、安っぽい言葉で語ることができないほど心にひびくものがありました。
来て良かった。

96. 10. 2. wed

---

2/22　昨日　日勝の本を読みおえたばかりで、さっそく見学に来てみた。
一言では言いつくせない、ほどの内容で、ここへ来らずにはいられなかったのです。
一生かかって、国内にある日勝の絵を見たい（すべての絵）です。　帯広市

---

H9. 3. 18.　帯広から鹿追の町に一人でドライブをしながら訪ねてきました……　日勝館は2度目、1人では始めてです……。
日勝の時代の農業は、長、くわ、手、大変だったのに、絵を描く才能を、忙がしさの中で、つぶす事なく、日勝の遺産として残した日勝の溢らの素晴しい、絵画を　そのままにすることなく　鹿追町民の1人の画家を　町、内外に、伝え様と、こんな立派な　たて物の中に自分の絵がある事を知ったなら、日勝は、きっと、鹿追のみなさんに、どんな思いだろうか……　大国様、神田日勝は、きっと、この鹿追の町民をこよなく愛し、この自然の中にたつ日勝館を見ているに違いない……。
せつないまでの、かなしいまでの　日勝の絵、私には神田、日の絵心は、分らないまでも、生きる事の、喜怒哀楽悲、……生きるとは、……そして力強く、農夫として、画人として、精いっぱい、生き抜いた、その エネルギーは　私にも心に伝わる。
なんだか、今日は、鹿追の風が、やさしく感じました
END.　K・F.

---

神田日勝のすばらしい作品に感動しました。
わずかな時間に心豊かな思いにさせてもらえました。いつまでも感動できる自分でいたいです。
97. 6. 14（土）　旭川より

---

1997. 8. 2

初めて　神田日勝の　作品を観たのは
13才の時で、30才を過ぎて、再び　神田日勝の
作品を目にすることができ　とても嬉しかった。
あの頃は　数々の作品を怖いと思っていたけれど、
とても印象に残っています。
「室内の風景」を観たかったです。

---

## 砂田友治展

**8月9日～24日**

北海道画壇を代表する画家で独立展・全道展会員の砂田友治氏のおよそ60年にわたる画業の初期から現在に至る作品群の中から、40点の自選による初の回顧展。

# 展覧会事業

会場・鹿追町民ホール

平成九年度も展覧会事業実行委員会の主催により、多彩な展覧会が開催され、多くの絵画ファンを魅了しました。

## 北4人展　北彩5人展　独立/北/の/風/展

**4月29日～5月8日**

**北**4人展
梅津　薫　川本ヤスヒロ　高橋　要（不出品）　輪島進一

*北彩5人展*
池田　緑　木村由紀子　土屋千鶴子　デュボア康子　中川克子

*独立/北/の/風/展*
木村富秋　斉藤嗣火　高橋正敏　福島孝寿　村本千洲子

―― 賛助出品 ――
独立美術協会会員　全道美術協会会員
砂田友治　竹岡羊子　栃内忠男

北海道在住画家で独立展・全道展で活動し、毎年、東京の画廊でグループ展を開催している三グループの合同展。独立展・全道展会員の三氏が賛助出品。

# ちょっとINFORMATION

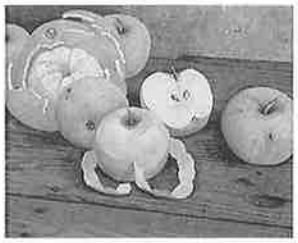
## 新展示作品紹介

北海道新聞社所蔵の「人と牛A」が、多くの方々に観覧していただきたいという同社の意向により寄託され、十月十四日から公開しています。

なお本年度は、三井福源氏蔵「静物」、白岩清貴氏蔵「静物」も展示しています。

人と牛A　一九六八年　油彩・板　一八二・五×一八二・五　北海道新聞社蔵

静物　一九六六年　油彩・板　五九・八×七一・八　三井福源氏蔵



静物　一九六八年　油彩・板　二二・四×二七・五　白岩清貴氏蔵

## 「室内風景」のテレホンカード

神田日勝の代表作「室内風景」のテレホンカードを作成しました。これで記念館作成のテレホンカードは四種類となりました。

## 今後の事業予定

- ○練馬区立美術館所蔵品展（1月下旬～3月下旬）
- ○絵画教室（12・2月）
- ○子ども絵画教室（冬休み）
- ○芸術鑑賞バスツアー（11月）
- ○子ども芸術鑑賞バスツアー（冬休み）
- ○子どもワークショップ（冬・春休み）